



学内広報

No.1320

2005.9.28
東京大学広報委員会



東京大学広報センター（2ページに関連記事）

CONTENTS

一般ニュース	2
特集：広報センターが開設10周年を迎えました！、UTOCWの今後の展開とTREEプロジェクトの始動	
キャンパスニュース	5
RoboTech 国際ロボコン優勝!!、平成16年度学部卒業生及び大学院修了者（修士・博士課程）の就職状況	
部局ニュース	15
平成18（2006）年度大学院学際情報学府修士課程入学試験結果について	
掲示板	16
「学生と若手卒業生との交流会」を開催、御殿下記念館からのお知らせ、第3回レーザーアライアンスシンポジウム開催、理学部第8回公開講演会のお知らせ、富士演習林80周年記念行事のお知らせ、教養学部で	

105回オルガン演奏会を開催、スポーツ・トレーニング（実習）開講、「第1回技術職員等による駒場キャンパス技術発表会」開催、生産技術研究所千葉実験所公開案内、インパクトファクターセミナーのお知らせ	
EVENT INFO	23
淡青評論 コンピュータでカードする	24
コラム	
コミュニケーションセンターだより No.4	4
駒IIキャンパス自衛消防隊 最優秀賞を受賞!!	10
教育学部附属中等教育学校の野福幸奈さんが出場した東京都チームが、かるたの全国大会で優勝!	18
教育学部附属中等教育学校の木下綾乃さんが東京都水泳大会で優勝、全国中学水泳競技大会5位!	22

特集 広報センターが開設10周年を迎えました！

広報センターって何？

広報センターは、学内外を問わずどなたでも利用できる、東京大学のことを知っていただくための施設です。様々な資料を閲覧することができ、広報誌の配布なども行っています。

この広報センターが、平成7年のオープンから、9月21日（水）で10周年を迎えました。オープン当初は年間の来館者数も2,000人程度でしたが、センターの存在が知られるようになり、またセンター内の資料も充実するにつれて利用者が増えてきました。東京大学に入学を希望する受験生、キャンパス見学に訪れた人たち、地域の方々など、さまざまな人々が訪れ、この10年間で来訪者は延べ42,000人以上に達しています。

（平成17年9月21日現在
来訪者累計42,280人）

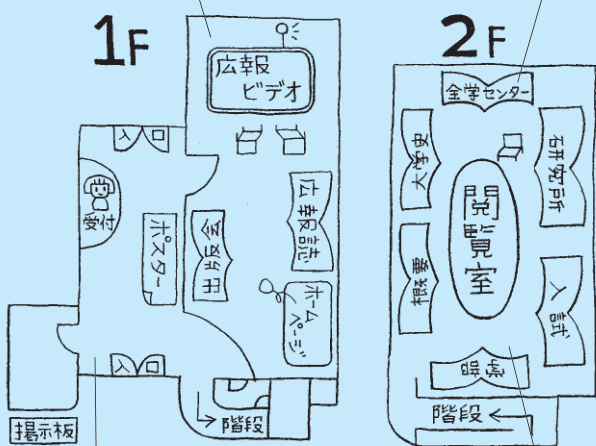


歴史ある建物なのです

広報センターは、本郷キャンパス龍岡門横にあるベージュ色のスクラッチタイル貼りの建物です。この建物は岸田日出刀（工学部・建築学科）により大正15年に建てられた、東京帝国大学医学部附属医院の急病者受付所を改装したものです。建築から80年になる歴史ある建物で、平成15年度には東京都の歴史的建造物に選定されました。

ご利用案内
 閉館日 月曜日・金曜日
 （祝日を除く）
 閉館時間 10時～16時半

広報センターに行ってみよう！



1階では、「学内広報」や学外向け広報誌「淡青」、大学案内や入学選抜要項などを配布しています。また、(財)東京大学出版会発行の書籍を展示しています。さらに、インターネットに接続された端末から本学ホームページなどを見ることができ、本学を紹介する広報ビデオも視聴できます。

2階は資料の閲覧室です。「東京大学の概要」や各学部の「講義要項」、研究所及び全学センターの「要覧」「研究成果報告書」など東京大学の現在を知ることができるものから、「東京大学百年史」や「学内広報」のバックナンバーなど東大の歴史を知ることができるもので、幅広い資料が用意されています。「東京大学 現状と課題」（白書）や「外部評価報告書」も閲覧できます。

また、大学入試問題（前期・後期日程）過去一年分の実物を展示しています。

広報センターからみなさんへ

今日まで多くの方が来館されました。

おひとりおひとりの「見たい・知りたい・調べたい」事柄は、私たちにとっても、東京大学をいろいろな面から学ぶという機会を与えていただきました。

また、80年という歴史を育んできたこの建物には、どこか穏やかな落ち着きを感じさせ、時にはお客様との会話ははずんでいます。

これからも、たくさんの方々との出逢いを大切にしながら、努めていきたいと思っております。



広報センターHP

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/public02_j.html

教育企画室

UT OCWの今後の展開とTREEプロジェクトの始動

UT OpenCourseWare (以下、UT OCW: 東大オープンコースウェア) は、本学で開講されている授業科目のカレンダー、シラバス、講義ノートや教材などを無償で公開するためのWebサイトである。
(UT OCWアドレス <http://ocw.u-tokyo.ac.jp/>)



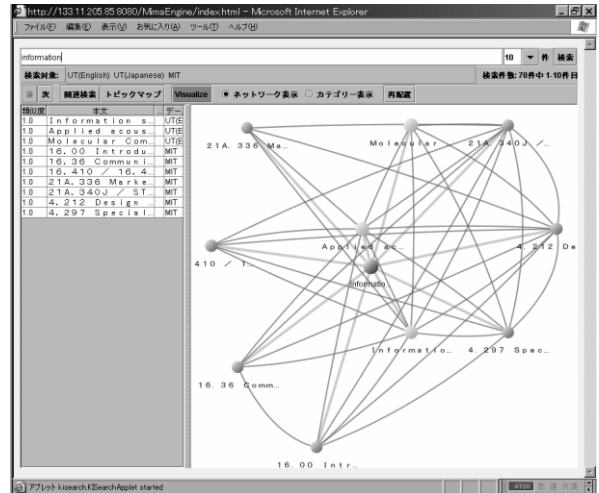
UT OCWトップページ

UT OCWには、現在、理学部・理学系研究科、工学部・工学系研究科、医学部・医学系研究科、数理学研究科、新領域創成科学研究科、学際情報学府で開講されている総計13の授業科目の講義資料が公開されている。今月9月には、新たに坂井修一教授の「コンピュータハードウェア」「論理回路基礎」が公開された。

今年度秋学期からは、小柴昌俊特別栄誉教授、佐藤勝彦教授、家泰弘教授、小宮山宏総長らによるオムニバス講義「学術俯瞰講義：物質の科学—その起源から応用まで」が教養学部で開講されるが、これに関しても、UT OCWにて公開を行う予定である。授業の公開は原則として日本語・英語で行い、今後は毎年10授業程度を目指してコンテンツを増やす予定である。UT OCWは、5月の公開以来、のべ8万人の利用があり、365万アクセスを記録している。

UT OCWの特徴のひとつは、シラバスを横断的に検索し、俯瞰的に可視化することのできる「知の構造化ツール：MIMA Search」を実装していることである。MIMA Search を用いると、本学で開講されている授業

のみならず、OCW形式で公開された他大学の多くの授業シラバスを横断的に検索し、俯瞰することが可能となる。UT OCWは本学が推し進める「知の構造化」を、教育の面から支援する事業の一環として位置付けることができる。



知の構造化ツール：MIMA Search

現在、UT OCW は教育企画室に設置された「教育の情報化プロジェクトチーム (リーダー・永田敬教授)」を母体とするUT OCW事務局で運営されている。

なお、UT OCWの立ち上げをきっかけに同プロジェクトチームは、本年7月より「教育の情報化」を推進するための全学的組織として「TREE: Today Redesigning Educational Environment」プロジェクトを立ち上げた。

(TREEアドレス <http://tree.ep.u-tokyo.ac.jp/>)



TREEプロジェクトWebサイト

このプロジェクトでは、本学で開講されている授業、ゼミナールなどをより豊かにするため、「情報技術」に注目し、そのあり方を模索する。具体的には各学部・研究科の教育課題やニーズに応じたサブプロジェクトをいくつか推進している。そのほとんどは、現在、企画段階

一般ニュース

にあり、まだ明らかにすることはできないが、最も進展のあるサブプロジェクトのひとつに「Todai on demand」がある。

「Todai on demand」は、「生命科学」「情報科学基礎」「物理」「統計」といった基礎講義のビデオオンデマンドサイトである。

近年、本学の学部、大学院には社会人や他大学出身者、留学生をはじめとして、多様な社会的背景をもった学生が入学しているが、それらの学生が、既存知識や興味に応じて自学自習するための教材等の開発が急務になっていることが、各学部・研究科の教育担当者のヒアリングによって明らかになった。「Todai on demand」では、年間数本の予定で、これらの学生が自学自習するためのリソースを提供する予定である。

また、TREEプロジェクトを推進するにあたり、国内外の「教育の情報化」に関する先行研究知見、技術動向、他大学の先行事例を把握し、その一部をニュースとして配信している。プロジェクトblogサイトにてご覧いただければ幸いである。

原稿募集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内（写真がある場合は文字数を控えるにしてください。）
- ・写真には、キャプション（説明文）を必ず添えてください。
- ・原稿は電子データで下記まで、メールまたは学内便でお送りください。

送付先 東京大学総務部広報課
TEL：03-3811-3393 内線：22031、82032
FAX：03-3816-3913
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は各月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合を除きます。

平成17年度の学内広報の発行スケジュール
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html

コミュニケーションセンターだより No.4

■コミュニケーションセンター販売個数ランキング

昨年11月にコミュニケーションセンターがオープンして初の夏休み月間でしたが、オープンキャンパスや休みを利用して大学見学にくる高校生などが多く来店され、予想以上に多くのお客様にご利用いただきました。

そこで今回は、コミュニケーションセンターにおける8月月間のアイテム別売上個数ランキングをご紹介します。

＜8月月間販売個数ランキング＞

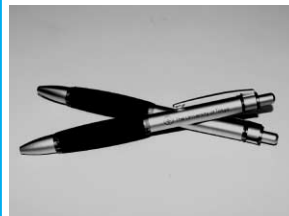
①	ポストカード
②	シャープペンシル
③	泡盛(御酒)
④	クリアファイル
⑤	ボールペン



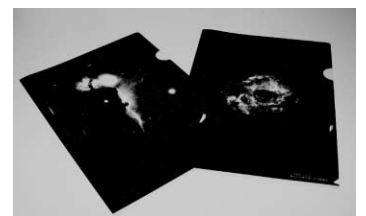
ポストカード
(1枚80円)

高校生には、ロゴ入りシャープペンシル、ボールペンなどの筆記用具が人気で、4位にはクリアファイルが登場しています。クリアファイルは、理学系研究科附属天文学教育センター木曾観測所の105cmシュミット望遠鏡により撮影された銀河系内外の諸天体の写真や、史料編纂所に所蔵されている明治以来の史料などが印刷されています。

ランク外ではありますが、腕時計、置時計なども販売個数を伸ばしています。



シャープペンシル
ボールペン
(各1本525円)



天体クリアファイル
(1枚280円)

(担当：渉外本部 曾我)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：30～18：30

電話：03-5841-1039

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html

10月は、日曜・祝日もOPENいたします。
OPEN：11：00～17：30

■ RoboTech 国際ロボコン優勝！！

工学部丁友会RoboTechが、第4回ABUアジア・太平洋ロボットコンテストに出場し、日本代表として初優勝しました。また、これに先立ち、日本代表選考会を兼ねたNHKロボコンでは、2年連続優勝を果たしました。

標記国際大会は、ABU (Asia-Pacific Broadcasting Union) が主催し、アジア太平洋地域の19カ国945チーム、1万人以上の参加者の中から各国内大会で優勝した代表20チームが集い、8月27日(土)到北京で開催されました。



RoboTechが製作したロボット群は、知的ソフトウェアと高性能メカトロニクス等の高度な技術と、最適戦略から危機管理まで徹底的な思考に基づく完全性の高い取り組みにより、優勝をものにしました。



これらは、他の諸国のチームを強く啓発し、熱心な情報交換と、それを通じた有意義な国際交流がなされました。また、帰国後早速、NHKはもとより、外務省の紹介でベトナムのテレビ局から強い関心を表した取材の申し込みがあるなど、国際広報・啓蒙活動にも貢献しています。

【試合結果】

○予選

1回戦 日本 47-0 イラン 勝ち
(グレートウォール達成)

2回戦 日本 37-43 エジプト 負け
一勝一敗でしたが、規定(対戦成績)により決勝トーナメント進出

○決勝トーナメント

準々決勝 日本 42-23 インドネシア 勝ち
準決勝 日本 38-15 中国2 勝ち
決勝 日本 42-37 中国 ★優勝★



ABUロボコン
優勝賞状



NHKロボコン2005
優勝カップ

○チームメンバー

若色讓二(機情3年)、勝又聡一郎(機情3年)、
谷田英生(理I2年)

○ピットクルー

河野徳郎(理I2年)、柿谷慧(機情3年)、
勝代雅行(機情3年)

○マシン製作指揮・日本大会チーム

(ABUチームに加えて)
片岡慧(理情4年)、山田総一郎(機情4年)、
石川悠司(電情4年)、山上智久(理情4年)、
鈴木秀明(機械4年)、堀内久嗣(機情4年)、
高橋秀俊(機情4年)、片山覚嗣(応化4年)

○部員構成

機情7、機械3、理情2、電気電子2、計数2、
応化1、理I9、理II1、計27名
部長 若色讓二(機械情報工学科3年)
顧問 教授 國吉康夫(工学部機械情報工学科兼任)

<参考ウェブサイト>

- 東京大学RoboTechホームページ
<http://www.mech.t.u-tokyo.ac.jp/~robotech/>
- NHKロボコン公式ホームページ
<http://www.official-robocon.com/top.html>
- ABUアジア・太平洋ロボコンホームページ
<http://www.abu.org.my/public/compiled/p488.htm>

学生部

**平成16年度学部卒業者及び大学院修了者
(修士・博士課程)の就職状況**

平成16年度の学部卒業者及び大学院修士・博士課程修了者の就職状況集計結果及び概況は次のとおりです。
(調査基準日は、平成17年5月1日現在)

1. 平成16年度学部卒業者及び大学院修士・博士課程修了者の就職状況集計結果

- (1) 学部卒業者及び大学院修士・博士課程修了者のうち、就職希望者数、就職者数及び非就職者数とその内訳を、学部別、研究科別にそれぞれを表1として集計。
- (2) 就職者のうち、産業別の就職者数を学部及び大学院(修士課程・博士課程)修了者に区分し、表2「産業別就職者数(平成16年度)」として集計。
- (3) 産業別の就職者数を、学部別、研究科別にそれぞれ表3として集計。産業区分については、今回から「学校基本調査」の職業分類項目に合わせることにした。
- (4) 過去10年(平成7年度～平成16年度)の就職状況の推移(学部卒業者及び修士・博士課程修了者)を卒業(修了)者数、就職希望者数、就職者数及び非就職者数に区分し、表4として集計するとともにグラフで表示。
- (5) 過去5年(平成11年度～平成15年度)の学部卒業者及び大学院修了者の産業別就職者数の推移を、表5として表示。

2. 平成16年度学部卒業者及び大学院修了者の概況

平成16年度学部卒業者数は、3,250人であり、そのうちの就職希望者は、948人(29.2%)、就職者数は948人(29.2%)で、就職を希望した者の100%が就職している。

非就職者2,302人(70.8%)と非就職の割合が高いのは、その大半が大学院進学者(1,714人)で占めていることからであり、全卒業者数に占める進学者数(進学率)の割合は、52.7%と進学率が就職率を上回っており、この傾向は、平成9年度から引き続いている。また、非就職者のうち、237人(10.3%、全卒業生に対する割合は7.3%)が翌年の受験(公務員試験、司法試験、その他の資格試験等)を目指す者であった。

大学院修士課程修了者数は、2,719人で、そのうちの就職者数は、1,380人(50.8%)、非就職者数は、1,339人(49.2%)だった。非就職者のうち996人(36.6%、全非就職者に対する割合は74.4%)が大学院

博士課程への進学者である。

大学院博士課程修了者は、1,458人で、そのうち就職希望者539人に対し、537人(36.8%、就職希望者に対する割合は99.6%)が就職した。非就職者数は921人(63.2%)であるが、奨励研究員等も非就職者数としてカウントしてある。

- ・平成16年度 学部別卒業者の就職状況(学部一表1)
- ・平成16年度 大学院(修士課程)研究科別修了者の就職状況(修士一表1)
- ・平成16年度 大学院(博士課程)研究科別修了者の就職状況(博士一表1)
- ・平成16年度学部卒業者及び大学院修了者(修士課程・博士課程)の産業別就職者数(表2)
- ・平成16年度各学部卒業者の産業別就職者数(学部一表3)
- ・平成16年度修士課程修了者の産業別就職者数(修士一表3)
- ・平成16年度博士課程修了者の産業別就職者数(博士一表3)
- ・学部卒業者数及び大学院修士・博士課程修了者数と就職状況の推移(過去10年)(表4)
- ・産業別就職者数(平成11年度～平成15年度)(表5)

学部一表1

平成16年度学部別卒業者の就職状況

平成17年5月1日現在

[単位：人]

区分	学部別	農学部										合 計	比率(%)	昨年度同期 比率(%)		
		法学部	経済学部	文学部	教育学部	教養学部	理学部	工学部	農学部 農学	獣医	医学部 医学				健康・看護	薬学部
学部卒業者数 (A)	(121)	611	343	357	105	171	268	915	227	34	100	37	82	3,250	100.0	100.0
		(47)	(122)	(37)	(44)	(25)	(75)	(18)	(14)	(53)	(15)	(24)	(100.0)	(595)	(100.0)	(100.0)
就職希望者数 (B)	(39)	239	261	166	58	51	12	104	35	12		9	1	948	29.2	27.9
		(39)	(30)	(51)	(23)	(19)	(12)	(10)	(8)	(3)	(1)	(196)	(32.9)	(1)	(32.0)	(32.0)
就職者数 (C)	(39)	239	261	166	58	51	12	104	35	12		9	1	948	29.2	27.9
		(39)	(30)	(51)	(23)	(19)	(12)	(10)	(8)	(3)	(1)	(196)	(32.9)	(1)	(32.0)	(32.0)
その他 (A-C)	(82)	372	82	191	47	120	256	811	192	22	100	28	81	2,302	70.8	72.1
		(82)	(17)	(71)	(14)	(25)	(63)	(7)	(43)	(7)	(18)	(11)	(23)	(399)	(67.1)	(68.0)
学部再・入学者	(2)	6	7	7	7	3	1	2	2	1		4	3	28	0.9	1.8
		(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(3)	(2)	(12)	(2.0)	(3.0)
大学院修士課程進学者	(42)	170	35	91	34	99	234	763	177	15		22	74	1,714	52.7	50.1
		(42)	(7)	(33)	(10)	(19)	(23)	(54)	(40)	(6)	(8)	(20)	(262)	(44.0)	(42.7)	
その他 [上記以外のもの]	(38)	196	40	98	12	19	22	47	13	7	100	2	4	560	17.2	20.2
		(38)	(8)	(36)	(4)	(6)	(2)	(8)	(3)	(1)	(18)	(1)	(1)	(125)	(21.0)	(22.4)
就職希望率 (B/A*100)	(32.2)	39.1	76.1	46.5	55.2	29.8	0.4	11.4	15.4	35.3		24.3	0.1	29.2		
		(63.8)	(62.2)	(43.2)	(0.2)	(43.2)	(18.9)	(53.0)	(21.4)	(32.9)	(21.4)	(0.4)	(32.9)	(32.9)	(32.9)	(32.9)

注：()内数字は、女子学生数を内数で示したものの。

「その他」欄中：法学部196名(38名)は自宅勉強者、医学部100名(18名)のうち96名(18名)は臨床研修医資格試験受験準備、外国への留学、未定等についても、「その他」を含む。

修士一表1

平成16年度大学院（修士課程）研究科別修了者の就職状況

区分	研究科別										合計	比率(%)	昨年年度同期 比率(%)					
	人文 社会系	教育学	法学 政治学	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学生命 科学	医学系					薬学系	数理科学	新領域創 成科学	情報理工 学系	学際情報
	149	33	18	25	195	186	280	106	17	202	42	52	18	83	42	10	1,458	100.0
課程修了者数(A)	(58)	(29)	(21)	(6)	(81)	(38)	(38)	(23)	(3)	(56)	(23)	(12)	(1)	(11)	(1)	(4)	(362)	(100.0)
就職希望者数(B)	20	10	43	23	76	114	524	191	2	8	32	14	198	102	29	1,386	51.0	50.1
就職希望者数(C)	(7)	(7)	(9)	(5)	(23)	(32)	(57)	(75)	()	(5)	(18)	(1)	(38)	(2)	(6)	(285)	(44.5)	(41.6)
就職者数	17	8	43	23	76	114	524	191	2	8	32	13	198	102	29	1,380	50.8	49.2
その他(A-C)	(6)	(5)	(9)	(5)	(23)	(32)	(57)	(75)	()	(5)	(18)	(1)	(38)	(2)	(3)	(279)	(43.5)	(40.0)
その他(A-C)	129	43	37	40	148	233	237	110	21	49	53	24	141	50	24	1,339	49.2	50.8
学部再・編入学者	(52)	(24)	(12)	(4)	(58)	(41)	(28)	(37)	(11)	(34)	(14)	()	(35)	(4)	(8)	(362)	(56.5)	(60.0)
学部再・編入学者	8	2	()	()	6	2	()	2	1	()	4	()	2	1	()	32	1.2	0.3
学部再・編入学者	()	(1)	()	()	(3)	(1)	()	(2)	(1)	()	()	()	(1)	()	()	(9)	(1.4)	(0.5)
修士課程再・編入学者	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
修士課程再・編入学者	94	35	19	29	127	216	138	93	17	29	46	17	70	45	21	996	36.6	40.8
修士課程再・編入学者	(32)	(19)	(4)	(1)	(44)	(37)	(11)	(11)	(9)	(22)	(11)	()	(12)	(4)	(6)	(241)	(37.6)	(46.5)
その他	27	6	18	11	15	15	99	15	3	20	3	3	69	4	3	311	11.4	9.7
その他	(20)	(4)	(8)	(3)	(11)	(3)	(17)	(6)	()	(12)	(3)	()	(22)	()	(2)	(112)	(17.5)	(14.0)
就職希望率 % (B/A*100)	13.7	19.6	53.8	36.5	33.9	32.9	68.9	63.5	0.9	14.0	37.6	37.8	58.4	67.1	54.7	51.0	(44.5)	(44.5)
就職希望率 % (B/A*100)	(12.1)	(24.1)	(42.9)	(55.6)	(28.4)	(43.8)	(67.1)	(67.0)	()	(12.8)	(56.3)	(100.0)	(52.0)	(33.3)	(54.5)	(44.5)	(44.5)	(44.5)

博士一表1

平成16年度大学院（博士課程）研究科別修了者の就職状況

区分	研究科別										合計	比率(%)	昨年年度同期 比率(%)					
	人文 社会系	教育学	法学 政治学	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学生命 科学	医学系					薬学系	数理科学	新領域創 成科学	情報理工 学系	学際情報
	149	33	18	25	195	186	280	106	17	202	42	52	18	83	42	10	1,458	100.0
課程修了者数(A)	(52)	(15)	(21)	(6)	(74)	(38)	(38)	(23)	(3)	(56)	(23)	(12)	(1)	(11)	(1)	(4)	(362)	(100.0)
就職希望者数(B)	39	19	5	10	55	55	104	24	6	110	17	25	2	37	21	10	589	43.7
就職希望者数(B)	(14)	(5)	()	(2)	(16)	(10)	(13)	4	(1)	(24)	(10)	(5)	(1)	(1)	()	(4)	(112)	(30.9)
就職者数	38	19	5	10	55	55	104	24	6	110	17	25	2	37	21	9	537	36.8
就職者数	(14)	(5)	()	(2)	(16)	(10)	(13)	4	(1)	(24)	(10)	(5)	(1)	(1)	()	(3)	(30.7)	(31.8)
その他(A-C)	111	14	13	15	140	131	176	82	11	92	25	27	16	46	21	1	921	63.2
その他(A-C)	(38)	(10)	(5)	(4)	(58)	(28)	(25)	19	(2)	(32)	(13)	(7)	()	(8)	(1)	()	(251)	(68.5)
学部再・編入学者	()	()	()	()	5	8	()	2	()	6	()	1	()	()	()	()	22	1.5
学部再・編入学者	()	()	()	()	(1)	()	()	()	()	(5)	()	()	()	()	()	()	(6)	(0.3)
修士課程再・編入学者	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
修士課程再・編入学者	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
博士課程再・編入学者	111	14	13	15	135	123	176	80	11	86	25	26	16	46	21	1	899	61.7
博士課程再・編入学者	(38)	(10)	(5)	(4)	(57)	(28)	(25)	19	(2)	(27)	(13)	(7)	()	(8)	(1)	()	(245)	(67.7)
その他	26.2	57.6	27.8	40.0	28.2	29.6	37.1	22.6	35.3	54.5	40.5	48.1	0.1	54.2	50.0	90.0	37.0	61.3
その他	(26.9)	(33.3)	()	(33.3)	(21.6)	(26.3)	(34.2)	17.4	(33.3)	(42.9)	(43.5)	(41.7)	(100.0)	(27.3)	()	(75.5)	(30.9)	(68.2)

注：()内数字は、女子学生数を内数で示したものを、資格試験受験準備、外国への留学、未定等については、「その他」に含む。
平成17年5月1日現在
【単位：人】

表 2

平成16年度学部卒業生及び大学院修了者（修士課程・博士課程）の産業別就職者数

平成17年5月1日現在

〔単位：人〕

	学 部	大学院(修士課程)	大学院(博士課程)
農・林・漁・水産業		1	
鉱業		2 (1)	1
建設・設備工事業	15 (2)	28 (5)	3
製造業 計	144 (21)	593 (132)	83 (14)
電気・ガス・熱供給・水道業 計	14 (2)	29 (2)	1
情報通信業	117 (28)	162 (25)	16 (2)
運輸業	32 (6)	33 (1)	2
卸売・小売業 計	41 (10)	34 (2)	1 (1)
金融・保険業 計	190 (35)	86 (9)	1
不動産業	21 (3)	6 (5)	2
飲食店・宿泊業 計	2 (1)		
医療・福祉業 計	8 (4)	6 (3)	84 (19)
教育・学習支援業 計	23 (5)	30 (9)	175 (35)
複合サービス事業		17 (2)	1
サービス業	130 (31)	122 (32)	112 (33)
公務	171 (41)	123 (27)	21 (2)
上記以外のもの	40 (7)	108 (24)	34 (5)
合 計	948 (196)	1,380 (279)	537 (111)

※()内数字は、女子学生を内数で示す。

学部一表 3

平成16年度学部卒業者の産業別就職者数

平成17年5月1日現在
〔単位：人〕

学部別 産業別	法	経済	文	教育	教養	理	工	農(農)	農(獣医)	医(医)	医(健康・看護)	乗	合計	比率(%)
農・林・漁・水産業		3(1)	1()	2()	2()	1()	6(1)						15(2)	1.6(1.0)
鉱業													144(21)	15.2(10.7)
建設・設備工事業	23(1)	33(3)	24(7)	7(2)	13(3)	3()	31(2)	3()	5(3)		2()		14(2)	1.5(1.0)
製造業	2()	7()	3(1)				1(1)	1()					117(28)	12.4(14.3)
電気・ガス・熱供給・水道業	19(5)	4()	58(10)	13(7)	7(3)	1()	12(2)	3(1)					32(6)	3.4(3.1)
情報通信業	8(1)	7()	6(4)	4()	2(1)		3()	2()					41(10)	4.3(5.1)
運輸業	4()	16(1)	2(1)	2()	11(6)		1()	4(1)				1(1)	190(35)	20.1(17.9)
卸売・小売業	47(11)	99(10)	14(5)	4(1)	7(4)	1()	12(2)	6(2)					21(3)	2.2(1.5)
金融・保険業	4(1)	3()	6(2)		2()		5()	1()					2(1)	0.2(0.5)
不動産業			1(1)			1()							8(4)	0.8(2.0)
飲食店・宿泊業			2(1)	1()				1()					23(5)	2.4(2.6)
医療・福祉業			10(4)	5(1)	3()	2()					4(3)			
教育・学習支援業											3()			
複合サービス業														
サービス業	22(4)	57(11)	22(6)	6(3)	1()	1()	9(2)	8(2)	4(3)				130(31)	13.7(15.8)
公務	84(11)	32(4)	17(9)	14(9)	2(1)	2()	11(1)	6(4)	3(2)				171(41)	18.0(20.9)
上記以外のもの	26(5)				1(1)	1(1)	13(1)						40(7)	4.2(3.6)
合計	239(39)	61(30)	166(51)	58(23)	51(19)	12()	104(12)	35(10)	12(8)		9(3)	1(1)	948(196)	100.0(100.0)

注1:()内数字は、女子学生数を内数で示したものです。

修士一表3

平成16年度修士課程修了者の産業別就職者数

産業別	研究科別	人文 社会系	教育学	法学 政治学	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学生命 科学	医学系		薬学系	数理学	新領域 創成科学	情報理工 学系	学際情報	合計	比率(%)
										医学	保健学							
農・林・漁・水産業							1()										1()	0.1()
鉱業							1(1)	1()									2(1)	0.2(0.4)
建設・設備工事業							15(2)	254(31)	6(1)								28(5)	2.0(1.8)
製造業		2(1)		1()	4(2)	28(7)	61(19)	254(31)	92(41)			2(1)	16(10)		46(2)	5(2)	593(132)	43.0(47.3)
電気・ガス・熱供給・水道業				2()			22(1)	1(1)	1(1)								29(2)	2.1(0.7)
情報通信業		1(1)		2(1)	1(1)	10(3)	3(1)	23()	20(7)		4(2)	4(1)		28()	8(1)	162(25)	11.8(8.9)	
運輸業		1()		3(1)			2()	3()	2()							33(1)	2.4(0.4)	
卸売・小売業		3()		2()		2(1)	2()	11()	3()	1()		3()		2()	1()	34(2)	2.5(0.7)	
金融・保険業				7(1)	11(1)	4()	1()	26()	11(4)			6()		12()	1()	86(9)	6.2(3.2)	
不動産業								5(4)								6(5)	0.4(1.8)	
飲食店・宿泊業									3(1)		1(1)						6(3)	0.4(1.1)
医療・福祉業		3(2)		3()		8(3)	2(1)	2(1)	4(1)					4()		30(9)	2.2(3.2)	
教育・学習支援業													11(1)	2()		17(2)	1.2(0.7)	
複合サービス業		5(1)		10(4)	4(1)	11(4)	10()	26(3)	24(12)		2(1)	4(2)	17(4)	1()	10()	122(32)	8.8(11.5)	
サービス業		1()		18(3)	3()	7(1)	14(6)	32(3)	15(4)		1(1)	5(4)	20(4)	4()		123(27)	8.9(9.7)	
公務						6(4)		75(12)	10(3)				7(3)	6()		108(24)	7.8(8.6)	
上記以外のもの		1(1)		43(9)	23(5)	76(23)	114(32)	524(57)	191(75)	2()	8(5)	32(18)	13(1)	198(38)	29(3)	1,380(279)	100.0(100.0)	
合計		17(6)	8(5)	43(9)	23(5)	76(23)	114(32)	524(57)	191(75)	2()	8(5)	32(18)	13(1)	198(38)	29(3)	1,380(279)	100.0(100.0)	

博士一表3

平成16年度博士課程修了者の産業別就職者数

産業別	研究科別	人文 社会系	教育学	法学 政治学	経済学	総合文化	理学系	工学系	農学生命科学		医学系		薬学系	数理学	新領域 創成科学	情報理工 学系	学際情報	合計	比率(%)
									農学	獣医	医学	保健学							
農・林・漁・水産業																		1()	0.2()
鉱業								1()										3()	0.6()
建設・設備工事業								2()										83(14)	15.4(12.6)
製造業		1(1)				9()	20(3)	20(4)	6(1)	1()	3()	1()	9(3)		11(2)	2()		1()	0.2()
電気・ガス・熱供給・水道業																		16(2)	3.0(1.8)
情報通信業		1()				4(1)		2()										2()	0.4()
運輸業								1()					1(1)					1(1)	0.2(0.9)
卸売・小売業																		1()	0.2()
金融・保険業																		2()	0.4()
不動産業								2()										84(19)	15.6(17.1)
飲食店・宿泊業									8()	1()			1()		6()	6()	6(1)	175(35)	32.5(31.5)
医療・福祉業		31(10)		5()	10(2)	32(11)	11(2)	34(2)		78(14)	1()	4(1)	8(1)		1()			1()	0.2()
教育・学習支援業									10(3)	3(1)	25(10)	2(2)	6()	2(1)	4()	6()	3(2)	112(33)	20.9(29.7)
複合サービス業		5(3)				9(4)	21(4)	14(3)	10(3)	1()	3()	5(2)			4()	1()		21(2)	3.9(1.8)
サービス業						1()	1()	5()		1()	3()							34(5)	6.3(4.5)
公務								23(4)											
上記以外のもの		38(14)	19(5)	5()	10(2)	55(16)	55(10)	104(13)	24(4)	6(1)	110(24)	17(10)	25(5)	2(1)	37(3)	21()	9(3)	537(111)	100.0(100.0)
合計		38(14)	19(5)	5()	10(2)	55(16)	55(10)	104(13)	24(4)	6(1)	110(24)	17(10)	25(5)	2(1)	37(3)	21()	9(3)	537(111)	100.0(100.0)

注：()内数字は、女子学生数を内数で示したものです。

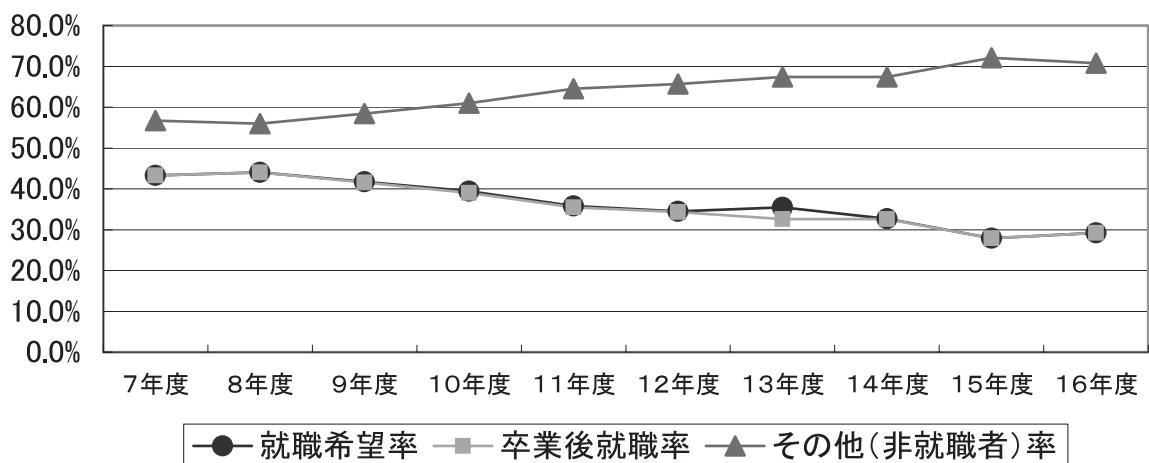
平成17年5月1日現在
[単位：人]

表4 学部卒業業者数及び大学院修士・博士課程修了者数と就職状況の推移（過去10年）

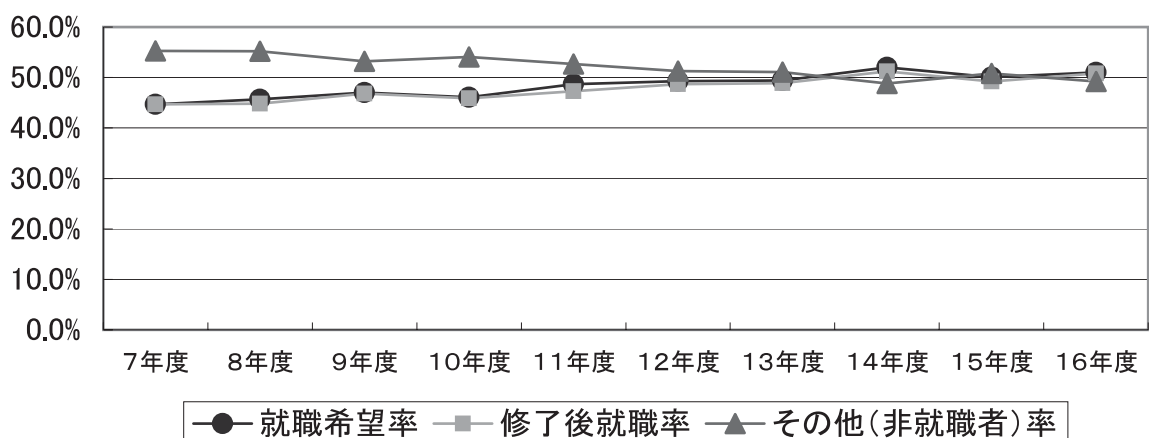
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	
学部	卒業業者数	3,578	3,576	3,515	3,616	3,368	3,428	3,380	3,416	3,250	
	就職希望者数	1,551	1,574	1,465	1,426	1,207	1,182	1,106	954	948	
	卒業後の就職者数	1,551	1,574	1,462	1,410	1,197	1,176	1,103	953	948	
	その他(非就職者)数	2,027	2,002	2,053	2,206	2,171	2,252	2,277	2,463	2,302	
	就職希望率	43.3%	44.0%	41.7%	39.4%	35.8%	34.5%	35.5%	32.7%	27.9%	29.2%
	卒業後就職率	43.3%	44.0%	41.6%	39.0%	35.5%	34.3%	32.6%	32.6%	27.9%	29.2%
修士課程	その他(非就職者)率	56.7%	56.0%	58.4%	61.0%	64.5%	65.7%	67.4%	72.1%	70.8%	
	修了者数	2,000	2,115	2,231	2,247	2,197	2,470	2,482	2,673	2,711	
	就職希望者数	893	966	1,049	1,035	1,069	1,217	1,227	1,390	1,359	
	修了後の就職者数	893	948	1,045	1,031	1,040	1,203	1,213	1,368	1,334	
	その他(非就職者)数	1,107	1,167	1,186	1,216	1,157	1,267	1,269	1,305	1,377	
	就職希望率	44.7%	45.7%	47.0%	46.1%	48.7%	49.3%	49.4%	52.0%	50.1%	
博士課程	修了後就職率	44.7%	44.8%	46.8%	45.9%	47.3%	48.7%	51.2%	49.2%	50.8%	
	その他(非就職者)率	55.3%	55.2%	53.2%	54.1%	52.7%	51.3%	48.8%	50.8%	49.2%	
	修了者数	783	892	935	964	894	1,223	1,388	1,371	1,532	
	就職希望者数	418	458	435	517	471	617	677	619	669	
	修了後の就職者数	411	451	427	501	456	599	635	591	586	
	その他(非就職者)数	372	441	508	463	438	624	753	780	946	
博士課程	就職希望率	53.4%	51.3%	46.5%	53.6%	52.7%	50.4%	48.8%	45.1%	37.0%	
	修了後就職率	52.5%	50.6%	45.7%	52.0%	51.0%	49.0%	45.7%	43.1%	36.8%	
	その他(非就職者)率	47.5%	49.4%	54.3%	48.0%	49.0%	51.0%	54.3%	56.9%	63.2%	

表4

学部就職状況の推移



修士課程就職状況の推移



博士課程就職状況の推移

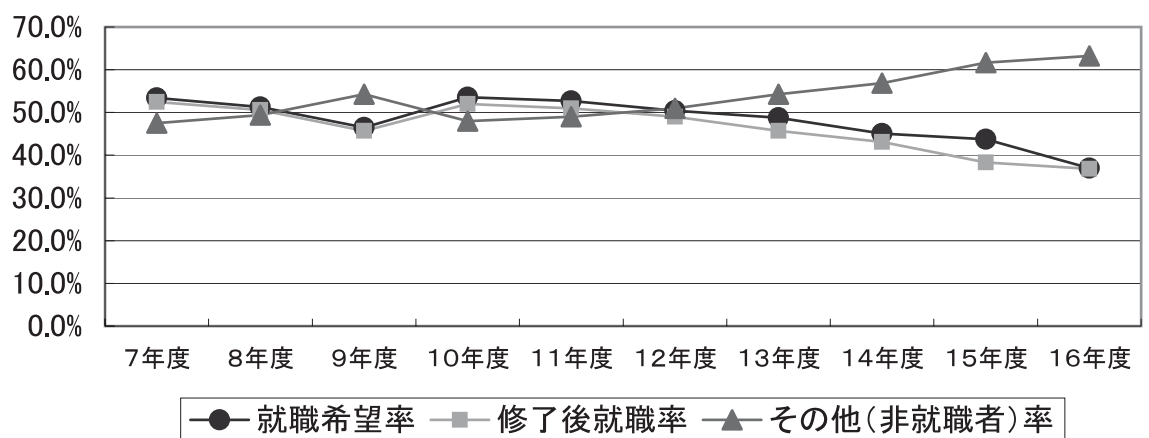


表 5

産業別就職者数（平成11年度～平成15年度） 学部及び大学院（修士課程・博士課程）

	学部・大学院別	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
農・林・漁・水産業	学部	0	0	0	4	1
	大学院(修士課程)	1	0	0	0	2
	大学院(博士課程)	1	0	1	0	1
鉱業	学部	2	0	1	3	3
	大学院(修士課程)	6	2	1	1	4
	大学院(博士課程)	0	0	0	1	0
建設業	学部	16	16	11	11	10
	大学院(修士課程)	38	60	40	49	80
	大学院(博士課程)	3	8	7	8	5
製造業 計	学部	265	248	266	212	147
	大学院(修士課程)	523	606	595	599	617
	大学院(博士課程)	73	87	89	85	108
卸売・小売業 計	学部	42	33	44	37	31
	大学院(修士課程)	10	20	22	21	26
	大学院(博士課程)	0	0	2	0	2
金融・保険・不動産業 計	学部	266	266	228	194	162
	大学院(修士課程)	71	70	79	86	70
	大学院(博士課程)	3	6	5	2	7
運輸・電気・ガス・水道業 計	学部	145	131	85	167	57
	大学院(修士課程)	127	102	132	225	67
	大学院(博士課程)	11	9	6	9	3
情報通信業	学部	0	0	0	0	129
	大学院(修士課程)	0	0	0	0	160
	大学院(博士課程)	0	0	0	0	14
サービス業	学部	165	201	169	189	123
	大学院(修士課程)	95	151	120	173	132
	大学院(博士課程)	53	70	12	58	92
教育・学習支援業 計	学部	17	17	9	12	13
	大学院(修士課程)	16	10	21	21	19
	大学院(博士課程)	121	180	187	199	195
公務	学部	192	177	172	194	184
	大学院(修士課程)	84	109	86	118	94
	大学院(博士課程)	122	150	169	120	19
公共企業体	学部	9	14	7	4	3
	大学院(修士課程)	12	6	27	1	0
	大学院(博士課程)	35	12	76	30	0
その他	学部	78	73	119	76	90
	大学院(修士課程)	57	67	90	74	63
	大学院(博士課程)	34	77	81	79	140

大学院情報学環・学際情報学府

平成18（2006）年度大学院学際情報学府修士課程入学試験結果について

大学院学際情報学府は、平成18（2006）年度修士課程入学試験一次試験（筆記試験）を8月22日（月）に、二次試験（口述試験）を8月29日（月）及び30日（火）に実施し、9月2日（金）に合格者を発表した。志願者数及び合格者数は、下表のとおりである。

平成18（2006）年度大学院学際情報学府修士課程入学志願者数・合格者数

コース	受入予定 人員	日本人/ 外国人	志願者			合格者		
			本学	他大学	計	本学	他大学	計
社会情報学	約20	日本人	10	47	57	5	14	19
		外国人		16	16		4	4
		計	10	63	73	5	18	23
文化・人間情報学	約30	日本人	6	77	83	2	24	26
		外国人		12	12		6	6
		計	6	89	95	2	30	32
学際理数情報学	約20	日本人	15	18	33	10	11	21
		外国人	2	7	9		3	3
		計	17	25	42	10	14	24
合計	約70	日本人	31	142	173	17	49	66
		外国人	2	35	37		13	13
		計	33	177	210	17	62	79



駒Ⅱキャンパス自衛消防隊 最優秀賞を受賞！！

9月13日（火）、目黒消防署主催の平成17年度自衛消防活動審査会がダイエー碑文谷店駐車場において開催されました。審査会は男子隊Aの部（火災予防条例により防災センターまたは自衛消防隊の設置義務事業所）15隊、男子隊Bの部（Aの部以外の事業所）9隊、女子隊の部8隊によって、日頃の訓練の成果が競われました。

自衛消防隊は3名で構成され、火報の発信から始まり、初動対応、通報・連絡、消火器の扱い、避難誘導、屋内消火栓の操作と放水までの安全・確実性、士気、隊員全体の連携、動作の機敏性、終了までのタイムを競う大会であり、総合的に技術が良好と認められる隊が表彰されます。

東京大学駒場Ⅱ（リサーチキャンパス）からは2隊が参加し、指揮者宗像さん（生研）、1番員大保さん（先端研）、2番員中村さん（生研）の隊が男子隊Aの部において、練習成果を十分発揮して、見事念願の最優秀賞を獲得しました。



最優秀賞を獲得した自衛消防隊のメンバー
（左から中村さん、大保さん、宗像さん）

一生懸命競技している審査会に参加して、火災発生時の迅速な対応と、災害を最小限に止めるための初期消火がいかに大事かを改めて感じました。

（生産技術研究所事務部）

学生部

「学生と若手卒業生との交流会」を開催

お知らせ

本学の学部学生及び大学院学生を対象に、学生の進路を中心とした人生形成を支援するために、「学生と若手卒業生との交流会」を開催します。

学生ひとりひとりが、①より価値のある生き方（時代の先頭に立つ人材）とは何かを考え、②より価値のある生き方をするために、働くということをどう位置づけるか、その結果どういった職業を選択すべきかを考えるための機会・場・仕組みを提供することを目的としています。

「企業」対「学生」の就職支援イベントとは異なり、研究者、公務員、企業及び起業家など実社会で活躍する若手OB・OGと学生が、より価値のある生き方について語り合う「個」対「個」の交流会です。

本交流会については、本学ホームページなどにおいてもお知らせする予定です。

●参加対象者：本学学生（200～300名程度）

●参加費：無料

●開催日時・場所

平成17年10月29日（土）13:00～19:30

御殿下記念館ジムナジウム（本郷）

平成18年5月の土曜日を予定

駒場キャンパス内

●申込み方法

参加申込み希望者は、予め学生部キャリアサポートグループへメール又は電話にてお申込みください。（お申込みをされなかった場合でも余裕がある場合には、当日の参加申込みを受け付けます。）

E-mail：careersupportg@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

TEL：03-5841-2550、2552

●問い合わせ先

学生部キャリアサポートグループ

（岡本、佐々木、上間、本村）

内線：22552、22550、22544、22650

E-mail：careersupportg@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

渉外本部（小野寺）

内線：21248

E-mail：t-onodera@adm.u-tokyo.ac.jp

学生部

御殿下記念館からのお知らせ

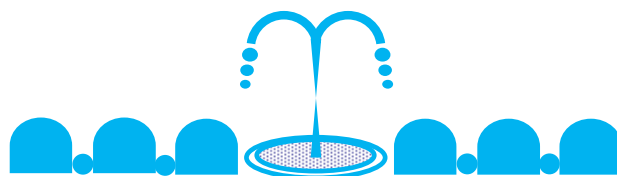
お知らせ

御殿下記念館の利用においては、パスカードによる利用か、当日券（または回数券）による利用となっておりますが、従来、当日券での利用の際は「学生証」または「身分証明証」を預かり、退館時に返却することとなっていました。

今般、新ICカード学生証およびコーポレートカード統合型職員証が導入されるにあたり、10月1日（土）より、当日券による入館手続きを変更し、学生証・職員証は提示していただくのみとし、預からないこととしましたので、お知らせします。詳細は館内掲示または御殿下記念館ホームページをご参照ください。

（HPアドレス <http://www.undou-kai.com/goten/>）

なお、パスカードによる利用及び卒業生・同伴者の利用については従前どおりとしますので、よろしくお願います。



「噴水」のコーナーにご意見を！！

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただくコーナーとして「噴水」が設けられています。

本学における教育・研究活動等に関する意見等をお寄せください。広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

[原稿の送付先]

東京大学総務部広報課

MAIL：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

[お問い合わせ]

TEL：03-3811-3393

内線：22031、82032

大学院工学系研究科・工学部

第3回レーザーアライアンスシンポジウム開催

シンポジウム・講演会

レーザーはその発明から既に45年になりますが、現在では、レーザー技術は基礎科学だけでなく工学の幅広い分野に浸透し、特に先端研究では不可欠な道具となっています。レーザーアライアンスは、このような幅広い領域に広がるレーザーに関わる研究者が分野や専攻の枠を越えて集い、光科学、レーザー科学あるいはレーザー応用技術の新たな展開を目指すことを目的としています。

本シンポジウムでは、アライアンスのメンバーの中から、現在世界的に活躍中の新進気鋭の研究者を集め、その最先端の研究を幅広い領域の研究者、学生を対象にわかりやすく解説して頂くこととしました。これによって、分野を超えたレーザー科学と技術の新たな展開を促し、レーザーアライアンスの輪をさらに広げて行くことを期待しています。皆様の積極的な参加を歓迎いたします。

日時：10月25日（火）13:10～16:55

場所：武田先端知ビル 武田ホール

プログラム

- 13:10 開会挨拶
レーザーアライアンス実行委員長（五神真教授）
- 13:15 工学系研究科長（平尾公彦教授）挨拶
- 座長 杉山正知助教授（工学系研究科電子工学専攻）
- 13:20 「レーザーCVDによる単層カーボンナノチューブ合成とその場ラマン測定」
工学系研究科機械工学専攻教授 丸山茂夫
- 14:00 「マイクロチップ化学を計測する顕微レーザー分光法」
工学系研究科応用化学専攻講師 火原彰秀
- 14:40 「超高速カーボンナノチューブ可飽和吸収素子と受動モード同期光ファイバレーザーへの応用」
工学系研究科電子工学専攻助教授 山下真司
- <15:20～15:30 休憩（10分間）>
- 座長 五神真教授（工学系研究科物理工学専攻）
- 15:30 「スピン自由度のあるボーズアインシュタイン凝縮体（原子波レーザー）」
工学系研究科 若手育成プログラム部門
助教授 井上 慎
- 16:10 「光格子時計
－18桁の周波数・時間計測を目指して－」
工学系研究科物理工学専攻助教授 香取秀俊
- 16:50 閉会挨拶

大学院理学系研究科・理学部

理学部第8回公開講演会－意外と身近な理学研究－のお知らせ

シンポジウム・講演会

理学部での研究というみなさんはどんなイメージを持たれるでしょうか？難しい？堅苦しい？分かりにくい？いえいえ、そんなことはありません。

第8回公開講演会では理学部で行われている最新の研究の中から、身近だけれども案外知られていないテーマを選んでわかりやすくお話しします。

- 私たちの地球環境は一体どうなっていくの？
 - 私たち人類や文明は一体どのように地球上に広がっていったの？
 - 私たちの命を支えている化学反応はどのように進むの？
- 知っているつもりでも実は知らないこんな三つの不思議を、ちょっと一緒にのぞいてみませんか？

講演内容：

- 「分子と生命をつなぐ分光学」
濱口宏夫（理学系研究科化学専攻・教授）
- 「人類進化の舞台としての西アジア（レバント）」
近藤修（理学系研究科生物科学専攻・助教授）
- 「地球シミュレータによる地球温暖化の予測」
木本昌秀（大気候システム研究センター・教授）

日時：11月11日（金）18:00～20:30（17:00開場）

場所：本郷キャンパス 安田講堂

参加費：無料（当日先着500名）

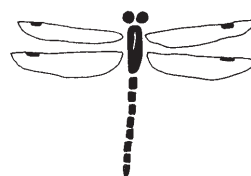
主催：大学院理学系研究科・理学部

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/>

問い合わせ先：大学院理学系研究科・理学部

電話：03-5841-7585

e-mail：shomu@adm.s.u-tokyo.ac.jp



大学院農学生命科学研究科・農学部 富士演習林80周年記念行事のお知らせ

お知らせ

富士演習林は大正14（1925）年の創設から、本年11月で80周年を迎えます。これを記念して下記の行事・企画を行います。紅葉の富士演習林の森林を楽しんでみませんか。

①富士演習林ガイドウォーク

日 時：10月19日（水）、20日（木）、21日（金）
13:00、15:00スタート
10月23日（日）
13:00、14:00、15:00スタート
集 合：東京大学富士演習林
定 員：各回先着10人
参加費：500円
申込締切：10月14日（金）
定員に余裕があれば当日受付も可

②親子オリエンテーリング大会

日 時：10月22日（土）9:00～16:00
（受付は14:00終了）
集 合：東京大学富士演習林
参加費：1チーム（中学生以下の子供を含む親子2人）
1,000円（3名以上のチームは追加1人につき500円）
申込締切：10月7日（金）
当日受付も可（参加費500円追加）

③競技オリエンテーリング大会（コース難易度Aクラス）

日 時：10月23日（日）
9:00～11:00 受付
10:00～11:30 スタート
集 合：東京大学富士演習林
参加費：1,000円
申込締切：10月7日（金）
当日受付も可（参加費500円追加）

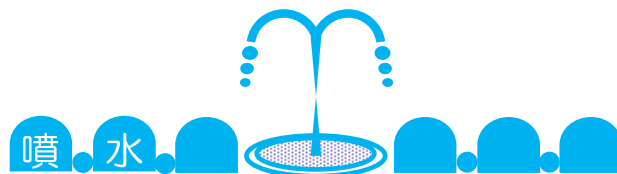
④記念講演会「山中湖畔 東大の森の自然、人、未来」

日 時：10月24日（月）13:30～15:30
集 合：山中湖村情報創造館
定 員：先着100人
参加費：無料
申込締切：10月14日（金）
定員に余裕があれば当日受付も可

各イベントとも申込みは住所、氏名、年齢、連絡先、参加希望イベント（ガイドウォークは希望日時）を明記の上、FAX、e-mail、往復ハガキのいずれかで、富士演習林事務所へお送りください。

内容の詳細はホームページ、i-modeサイトに掲載しています。

申込先・問い合わせ先：東京大学富士演習林
〒401-0501 山梨県南都留郡山中湖村山中341-2
電話：0555-62-0012 FAX：0555-62-4798
e-mail：fuji@uf.a.u-tokyo.ac.jp
富士演習林HP
<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/>
富士演習林i-modeサイト
<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/imode/>



教育学部附属中等教育学校の野福幸奈さんが出場した東京都チームが、かるたの全国大会で優勝！

青森市などで7月29日（金）～31日（日）に第29回全国高等学校総合文化祭が行われた。この文化祭は全国の高校生が文化活動の成果を発表、競演して交流するものであり、音楽の発表や書道作品の展示、将棋の競技など22部門に分かれている。今年は全国約2,800校の約18,000人が参加して開催された。



かるた大会で活躍した
野福幸奈さん

それらの1つに小倉百人一首かるた部門がある。競技は31都道府県の代表チーム5人の対抗戦である。東京都チームは予選リーグから全勝して決勝トーナメントに進出。予選から準決勝までの5試合は無敗で勝ち進み、決勝でも静岡県に4勝1敗で勝ち、みごとに全国優勝した。

この東京都代表チーム8名の一員として、附属中等教育学校5年の野福幸奈が参加した。6試合中3試合に出場して、すべて勝ち、チームの全国優勝に貢献した。中学2年からかるたを始めた野福は「来年もぜひ優勝して今年のような感動を味わいたい。」と語っている。

（教育学部附属中等教育学校 細矢和博）

大学院総合文化研究科・教養学部 教養学部で第105回オルガン演奏会を開催

お知らせ

教養学部では、恒例のオルガン演奏会を次のとおり開催します。このたびは、日本はもとより海外でも活躍なさっている大井浩明氏をお迎えし、バッハの『クラヴィーア・ユーブング』第3巻のうちプレリュードとフーガ、大コラールを中心にお楽しみいただきます。どうぞご期待ください。

入場は無料です。ホームページを開設していますので、ぜひご覧ください。

(HPアドレス <http://organ.c.u-tokyo.ac.jp>)

日時：10月13日(木) 18:30開演(18:00開場)

場所：教養学部900番教室(講堂)

曲目：

J・S・バッハ

『クラヴィーア・ユーブング』第3巻より

プレリュード 変ホ長調(BWV 552/1)

キリエ、永遠の父なる神よ(BWV 669)

キリストよ、世の人すべての慰め(BWV 670)

キリエ、聖霊なる神よ(BWV 671)

いと高きところには神にのみ栄光あれ(BWV 676)

これぞ聖なる十戒(BWV 678)

われらみな一なる神を信ず(BWV 680)

天にましますわれらの父よ(BWV 682)

われらの主キリスト、ヨルダンの川に来たり

(BWV 684)

深き悩みの淵より、われ汝に呼ばわる(BWV 686)

われらの救い主なるイエス・キリストは、われらより

神の怒りを除きたまえり(BWV 688)

フーガ 変ホ長調(BWV 552/2)

久保田翠

「くろきものわが眼おほへど」

演奏：大井浩明(オルガン)

大学院総合文化研究科・教養学部 スポーツ・トレーニング(実習)開講

お知らせ

教養学部では、専門課程の学生を対象としたスポーツ・トレーニング(実習)を下記の通り開講します。学

部、学科を問わず専門課程および大学院の学生であればどなたでも他学部聴講として履修できます。ただし、卒業に必要な単位の一部として認定している学部は現在のところ、法学部(2単位まで)、経済学部(2単位まで)、教養学部(超域文化科学科のみ1単位)、教育学部(2単位まで)、文学部(1単位)です。その他の学部・研究科では随意科目となります。

科目名：スポーツ・トレーニング

開講学部：教養学部後期課程

単位：1週1回90分1学期の授業で1単位を与える。

開講曜限および場所

木曜3限(13:15~14:45)	本郷御殿下記念館および
木曜4限(15:15~16:45)	御殿下グラウンド
金曜5限(16:20~17:50)	駒場テニスコート

科目番号

木曜3限	木曜4限	金曜5限
908	909	910

本郷キャンパスでの開講種目と定員

木曜3限 (13:15~14:45)	バレーボール	40名
	バドミントン	30名
	卓球	30名
木曜4限 (15:15~16:45)	トレーニング*	40名
	バスケットボール	40名
	バドミントン	20名

*マシンの使用を中心とした筋力トレーニング。受講によって御殿下記念館トレーニングルーム使用資格が与えられます。

駒場キャンパスでの開講種目と定員

金曜5限 (16:20~17:50)	テニス	20名
-----------------------	-----	-----

ガイダンスおよび受講登録

本郷キャンパスでの開講種目については10月6日(木)上記のそれぞれの授業時間に法学部31番教室で行います。テニス(駒場)については10月7日(金)5限に教養学部身体運動科学研究棟会議室で行います。なお、同一学期に2コマ以上履修することはできません。

問い合わせ先

総合文化研究科・教養学部生命環境科学系 八田助教
(内線46862) e-mail: hatta@idaten.c.u-tokyo.ac.jp

「第1回技術職員等による駒場キャンパス技術発表会」開催

お知らせ

駒場キャンパスでは技術職員等による技術発表会を下記のように開催します。

今年より駒場キャンパスでは、教養学部では過去9回、生産技術研究所では13回行われてきた技術発表会を駒場事業場統一の技術発表会と位置づけ「第1回駒場キャンパス技術発表会」として行うことになりました。このことにより、駒場キャンパス内の技術発表会がなかった部局の技術職員等もこの技術発表会で発表できるようになりました。

技術発表会は駒場Ⅰ・Ⅱキャンパスの技術職員が協力し、企画・運営を行い、研究支援業務、研究業務の成果を発信・議論する場とし、より一層の発展を目指しています。さらに、合同になることにより技術職員間の技術交流もより活発になると考えています。

今回の発表は、特別講演を含め16件の技術発表を予定しています。発表も研究所の研究テーマの変化にとまな多岐に渡っています。また、教養学部と合同で行うことにより、教育実験・演習・実習指導技術等の分野も付加されました。特別講演は、多品種、小ロット、高技術が必要な分野に活路を求め、単品非量産精密加工、試作製品製作で活躍されてきた技術者の方にご講演をお願いすることになりました。

発表会では、技術職員の研究支援等、日ごろの活動ぶりとその成果が発表されると思います。奮ってご来聴ください。

日 時：10月27日（木）10:00～17:45

会 場：生産技術研究所 大会議室（An棟3F）

問い合わせ先：

第1回駒場キャンパス技術発表会実行委員会

実行委員長 高間信行（生産技術研究所 第2部）

Tel：03-5452-6685

Email：nob@iis.u-tokyo.ac.jp

プログラム

（以下、生産技術研究所：生研、教養学部：教養とする）

10:00～10:15 開会の挨拶

【口頭発表1】

10:15～10:35 「液体窒素汲み出しポンプの開発」

教養 共通技術室 小田嶋豊 技術専門員

教養 共通技術室 滝澤 勉 技術職員

教養 共通技術室 解良春恵 技術職員

教養 共通技術室 西村晴子 技術補佐員

物性研究所 低温液化室 土屋 光 技術職員

K.Kオムニックス 鳥井 豊

10:35～10:55 「ステンレス鋼、無酸素銅、アルミニウムの電界研磨による表面処理」

生研 第1部 河内泰三 技術職員

10:55～11:15 「生研海洋工学水槽の改良措置について－造波・台車制御装置、走行距離・位置検出装置等の製作－」

生研 第2部 板倉 博 技術専門職員

【口頭発表2】

11:20～11:40 「無補強組積構造建築の高耐震化に関する実験的研究」

生研 第1部 山内成人 技術職員

11:40～12:00 「COSMOS heat pipeの開発」

生研 第2部 上村光宏 技術専門職員

【口頭発表3】

13:00～13:20 「幹線道路沿道における自動車排気ガス汚染濃度の予測」

生研 第5部 高橋岳生 技術専門職員

13:20～13:40 「強誘電体周期分極反転素子の作製」

生研 第1部 小野英信 技術専門職員

13:40～14:00 「スナメリの音響観測について」

生研 第2部 坂巻 隆 技術専門職員

【口頭発表4】

14:05～14:25 「樹枝状島のシミュレーションプログラムの開発」

生研 第1部 小倉正平 技術職員

14:25～14:45 「「Bloom」フィルタを利用したパケットマーケティング法によるIPトレースバック技術」

生研 第3部 細井琢朗 技術職員

14:45～15:05 「翼型ノズルの製作－薄く長い物の曲面加工－」

生研 試作工場 板倉善宏 技術職員

【口頭発表5】

15:10～15:30 「快適な職場づくり－グローバル化のなかの大学における安全衛生管理－」

生研 第2部 上村光宏 技術専門職員

15:30～15:50 「焼結硬質材料の破面面積と破壊靱性との関係の探求」

生研 第4部 築場 豊 技術専門職員

15:50～16:10 「ケーターの可逆振り子」
 教養 共通技術室 解良春恵 技術職員
 教養 共通技術室 小田嶋豊 技術専門員
 16:10～16:30 「放電加工によるねじ加工」
 生研 試作工場 谷田貝悦男 技術専門職員

【特別講演】

16:35～17:35 「ものづくりが明日を拓く
 —得意分野に特化し—」
 日鈴精機工業株式会社 会長 鈴木利次

 17:35～17:40 閉会の挨拶
 17:45～19:00 技術情報交換会 (Ee棟 2Fラウンジ)

**生産技術研究所
 生産技術研究所千葉実験所公開案内**

お知らせ

生産技術研究所千葉実験所は、駒場キャンパスでは実施が難しい大規模な実験的研究やフィールドテストのための附属施設です。恒例となりました実験所公開を11月11日（金）に予定しています。西尾茂文前所長の特別講演、電気自動車や海中ロボットのデモンストレーション、ガイドツアーなども企画しています。進展の著しい研究活動と設備の充実した研究実験棟等を是非この機会にご覧ください。

日時：11月11日（金）10:00～16:00
場所：生産技術研究所 千葉実験所
 JR総武線 西千葉駅北口下車 約250m

公開予定テーマ

<特別講演>

ビジョンに牽引されたエネルギー需給構想
 西尾茂文 理事（副学長）

<デモンストレーション>

海中ロボット 浦研究室
 電気と制御で走る近未来車 堀研究室

<各研究室公開内容>

地震断層に対する社会基盤設備の防災性向上に関する研究	小長井研究室
建造物の動的破壊に関する研究—簡易振動実験手法開発にむけた超小型試験体破壊メカニズムの解明—	中埜研究室
免震・制振・スマート構造	藤田（隆）研究室
海を拓く自律型海中ロボット	浦研究室
『オリンピック漕艇競技艇』と『巨大波』に挑戦	木下研究室
“超”を極める射出成形	横井研究室
機械加工工具の新しい提案	谷研究室
円管内旋回流の乱流統計量に関する研究	加藤（千）研究室
車両空間の快適性評価 ・スケールモデル走行実験装置と次世代の鉄道車両の運動制御 ・ITS車両による道路路面計測	須田研究室
先進モビリティ連携研究センター研究活動紹介 ・サステナブルITSプロジェクト	池内・桑原・須田研究室
熱間変形加工時の内部組織変化	柳本研究室
能動型マイクロ波センサによる海面観測	林研究室
船舶の波浪中航海性能試験	影本研究室
電気と制御で走る近未来車の先進制御技術	堀研究室
特殊電子ビーム溶解装置を用いたシリコンスクラップの高度再利用技術の開発	前田研究室
バイオマスリファイナリーの創成	迫田・望月・崔研究室
持続生産のためのバイオマス資源の利用	迫田・望月・崔研究室
コンクリート建造物の安全性確保のための非破壊検査と補修	魚本・岸・加藤研究室
千葉実験所における実大建造物の開発	藤井・川口研究室
次世代空調システムの開発	加藤（信）・大岡研究室
バイオマス静脈物流システムの開発	野城研究室
補強土壁工法の耐震性	古関研究室
気候変動と人間活動の変遷、そして世界の水資源	沖・鼎研究室
伝統木造から高層木造へ	腰原研究室
巨大都市の安全性向上をめざして—都市基盤安全工学国際研究センター（ICUS）の活動—	ICUS

※詳細については、生産技術研究所HPをご参照ください。
 (HPアドレス <http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>)

情報基盤センター

インパクトファクターセミナーのお知らせ

お知らせ

情報基盤センターでは、本学所属の方を対象にインパクトファクターセミナーを開催します。

インパクトファクター (Impact Factor) とは、Thomson Scientific が開発した雑誌評価指標です。

Journal Citation Reportsに収録され、年に1度更新されます。ある雑誌のインパクトファクターとは、そこに掲載された論文の平均的な被引用数を表し、特定の研究分野における雑誌の影響度を測る客観的指標として利用されます。

最近では大学・研究機関における業績評価や科学研究費申請などにおいても使われている一方で、誤用されているも多く見受けられ、その解釈と応用には注意が必要です。

「インパクトファクターセミナー」では、インパクトファクターを正しく理解し使いこなすために留意する点をご紹介します。

研究者の方々をはじめ、論文引用データを使った研究評価の可能性に関心をお持ちの皆様のご参加をお待ちしています。

日時：10月20日 (木) 15:00～16:30
15:00～16:00 講演
16:00～16:30 質疑応答

会場：総合図書館3階 大会議室

講師：Thomson Scientific
アジアパシフィック リサーチサービス
シニアインフォメーション アナリスト
宮入暢子氏

申込方法：

受講ご希望の方 (本学所属の方に限ります) は、以下のいずれかの方法でお申込みください。

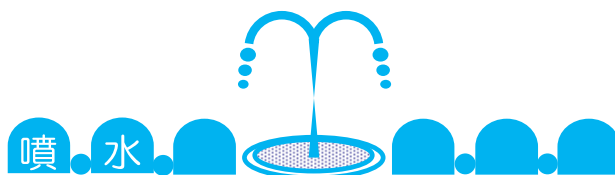
申込み受付後、学術情報リテラシー係より受講確認のメールを送付します。

1. 申込フォームからの申込み
以下のサイト内の申込みフォームにてお申し込みください。
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/news/IF2005>

2. 電子メールでの申込み
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp 宛てに以下の内容のメールをお送りください。

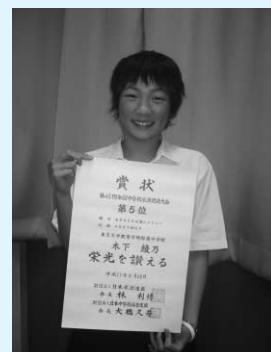
- ・ Subject (件名)
インパクトファクターセミナー参加希望
- ・ 記載必要事項
①お名前 ②ご身分・学年 ③ご所属
④電話番号 (内線・外線・携帯いずれでも可)
⑤特に説明してほしい事項、質問したい事項

問い合わせ先：情報基盤センター学術情報リテラシー係
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp
内線 22649



教育学部附属中等教育学校の木下綾乃さんが東京都水泳大会で優勝、全国中学水泳競技大会5位！

8月21日 (日)～23日 (火) に三重県鈴鹿市で行われた第45回全国中学校水泳競技大会 (平成17年度全国中学校体育大会) で、附属中等教育学校3年生の木下綾乃が400メートル個人メドレーでベストタイムを出し、5位に入賞した。木下はこの夏、東京都中学校学年別大会にも出場し、400メートル自由形で見事優勝している。



全国大会の400m個人メドレーで入賞した木下さん

木下は3歳になってすぐ水泳を始め、幼稚園の時から大会に出場している。小学校2年生から記録が伸び選手コースに入り、4年生の時初めてジュニアオリンピック全国大会に個人メドレーと背泳ぎに出場。6年生から本格的に個人メドレーを始めた。本校に入り、1年生の春にはジュニアオリンピックに出場し、夏には関東大会で8位。2年生では全国大会で7位に入っている。

「水泳をやっていると仲間がいっぱい増え、他県の友達もできて楽しい」が、「練習を休めないから友だちに遊びに誘われても行けないのが残念。勉強との両立も大変」。それでも「いつかインターハイに出場したい」と木下は意欲的に語っている。

(教育学部附属中等教育学校 松村厚子)

EVENT INFO

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
東洋文化研究所 平成17年度第3回定例研究会	10月6日(木) 14:00~	東洋文化研究所大会議室(3階)	東洋文化研究所企画委員会 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
外国法の調べ方セミナー「英国法・韓国法」	10月6日(木) 15:00~	総合図書館3階会議室	大学院法学政治学研究所附属外国法文献センター 03-5841-3198 http://www.j.u-tokyo.ac.jp/lib/gaise/semi2005_annai.html
特定領域研究「感染の成立と宿主応答の分子基盤」細菌領域若手部会	10月6日(木)、 7日(金)	医科学研究所講堂	医科学研究所 感染・免疫部門 細菌感染分野 03-5449-5253 http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/Event/seminar051006.htm
メディア研究のつどい：2005年第5回ワークショップ 岡田直之氏講演「世論とは何か」	10月12日(水) 18:30~	情報学環6階会議室	情報学環助教授 林香里 http://www.iii.u-tokyo.ac.jp/gnr_info/news/list05/27.html
COE「未来社会を担うエレクトロニクスの展開」国際シンポジウム	10月11日(火)、 12日(水)	武田先端知ビル武田ホール	電気系COE支援オフィス 03-5841-6793 Mail:coe21@ee.t.u-tokyo.ac.jp http://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/coe/conf05.html
第105回オルガン演奏会 ※19ページ参照	10月13日(木) 18:30~	教養学部900番教室	総合文化研究科・教養学部オルガン委員会 http://organ.c.u-tokyo.ac.jp
教育測定・カリキュラム開発講座 公開研究会 「動機づけに関する研究～評価と測定の視点から」	10月13日(木) 15:00~	赤門総合研究棟A200号室	大学院教育学研究科教育測定・カリキュラム開発講座 Mail: sokutei@p.u-tokyo.ac.jp http://www.p.u-tokyo.ac.jp/sokutei/sympo.html
先進生産技術オープンシンポジウム	10月13日(木)、 14日(金)	生産技術研究所コンベンションホール	先進研磨加工技術研究会 03-5452-6184 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/050907sensin.htm
富士演習林80周年記念行事 ※18ページ参照	10月19日(水) ~24日(土)	富士演習林	富士演習林 0555-62-0012 http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/news/80years.html
教育測定・カリキュラム開発講座 公開研究会 「Computerized Testing～理論と応用」	10月20日(木) 15:00~	赤門総合研究棟A200講義室	大学院教育学研究科教育測定・カリキュラム開発講座 Mail: sokutei@p.u-tokyo.ac.jp http://www.p.u-tokyo.ac.jp/sokutei/sympo.html
情報基盤センター インパクトファクターセミナー ※22ページ参照	10月20日(木) 15:00~	総合図書館3F大会議室	情報基盤センター学術情報リテラシー係 03-5841-2649 Mail: literacy@lib.u-tokyo.ac.jp http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/news/IF2005
数理科学研究科談話会	10月20日(木) 16:30~	数理科学研究科棟117号室	大学院数理科学研究科 http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/seminar/colloquium.html
社研 人材ビジネス研究寄付研究部門 成果報告会シンポジウム	10月24日(月) 15:00~	山上会館	社会科学研究所 人材ビジネス研究寄付研究部門 http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/jinzai/
第3回レーザーアライアンスシンポジウム ※17ページ参照	10月25日(火) 13:10~	武田先端知ビル武田ホール	大学院工学系研究科・工学部 03-5841-6009
第27回ビジネスローセンター公開講座 「財産開示手続の創設と間接強制の拡大～最近の民事執行法の改正から～」	10月27日(木) 15:00~	法学部25番教室(法文1号館2階)	東京大学ビジネスローセンター(BLC) http://www.j.u-tokyo.ac.jp/blc/opensslinar.html
第1回技術職員等による駒場キャンパス技術発表会 ※20~21ページ参照	10月27日(木) 10:00~	生産技術研究所大会議室	第1回駒場キャンパス技術発表会実行委員会 実行委員長 高間信行(生産技術研究所 第2部) 03-5452-6685 Mail: nob@iis.u-tokyo.ac.jp
2005年度第7回産学連携セミナー 「新しい共同研究のありかたを求めてーProprius21の実践」	10月28日(金) 17:00~	産学連携プラザ2階会議室	研究協力部産学連携課 03-5841-2857 http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/ss/seminar/index.html
数理科学研究科談話会	10月28日(金) 16:30~	数理科学研究科棟117号室	大学院数理科学研究科 http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/seminar/colloquium.html
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
常設展「よみがえる幕末明治の人々」 ※学内広報1317号参照	7月~10月	総合図書館3階ロビー	総合図書館 03-5841-2646(音声案内) http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/josetsu/
21世紀COEものづくり経営研究センター 「ものづくり寄席」	10月~3月	三菱ビルコンファレンススクエア エムプラス(東京駅丸の内南口)	ものづくり経営研究センター 03-5841-227 2http://www.ut-mmrc.jp/topics/yose.html
公開講座「高校生のための金曜特別講座(冬学期)」 ※1319号参照	10月14日(金)~ 2月10日(金)	教養学部11号館2階1106教室	教養学部社会連携委員会「公開講座」担当係 03-5454-6637 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/koukai2005winter.html
「ディオニュソスとペプロフォロスー東京大学ソマ・ヴェスヴィアーナ発掘調査の一成果」	10月15日(土)~ 11月13日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
「重井陸夫博士コレクション ウニの分類学」展	10月15日(土)~ 4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
東大病院第8回食事療法展 「はじめませんか?食事改革」	10月24日(月)~ 10月28日(金)	東大病院入院棟A1階レセプションルーム	東京大学医学部附属病院栄養管理室 03-5800-8637 http://www.h.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?newsid=93

コンピュータでカードする

古い時代の文献を読み、研究する場合、データを整理するために紙のカードが用いられていた。重要であると考える語を選び、その語が登場する複数の文を手書きしていた。それらの文にさらに重要と思われる語があると、同じ文を何度も別な見出し語のために書く必要があった。コンピュータが普及し、コピーして貼り付ける作業が楽になり、資料の量も急速に増大していく。

文献研究におけるコンピュータ活用の主流は、しかしこのような資料の作成よりも、テキストのデジタル化にあるように思われる。私が携わるインド古典学でも、多くのテキストがデジタル化され、特定の語を簡単に検索することができるようになった。しかし、どの語を選び検索するかは研究者の関心により決められる。テキスト全体を作ることは、もちろん大切な基礎作業であるが、研究者はそれを読んで分析していかなければならない。コンピュータの中に以前のような紙のカードを再現することが、次の



段階として重要な作業になると思っている。紙のカードにメモしていたのはいかなる語がどのテキストのどのような文脈で用いられていたかだけでなく、その語に関する先行研究の情報もあった。メモの量が増えると、このようなものをメモしていたのかと新発見することもある。

テキストを読み、分析する場合、そのテキスト全体の内容、類似のテキストの情報との比較などもあり、これらは紙のカードではなく、紙のノートに書いていた。それもコンピュータの中に入れることができる。しかし、新しい分野のテキストを読むとき、しばらくは何をメモしてよいかわからない事態が続く。メモをするということは、機械的な作業ではなく、一種の創造的な作業のようである。メモリーが大きくなった今日のコンピュータは、作業そのものを容易にしてくれるが、いかなる項目を作っていくべきかを考えることが私には重要に思える。しかし、最近の悩みは、メモするための十分な時間すら確保できないことである。

永ノ尾 信悟 (大学院情報学環)

(淡青評論は、学内の職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1320 2005年9月28日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO